

作業療法学科新入生・在学生の皆様へ

皆様、こんにちは。4月より学科長に就任した阪井です。新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

入学して頂いたにも関わらず、新入生の皆さんに登校を許可できず、誠に残念に思っています。皆さんに登校することは、少なくともこの夏まではありません。大学からの連絡にもあるように、皆さんの教育機会を確保するために、遠隔授業を中心とした講義の準備を行っています。これらの措置は御存知の通り、新型コロナウイルスに皆さんが感染することを防止することと同時に、発症患者数を抑えて医療崩壊を防止することを目的にしています。これらの趣旨を学生さんにも十分に理解して頂きたいと思います。

この困難な状況で、我々教員も困難な問題に直面しています。最高学年である4年生は4月から実習を開始する予定でしたが、現在停止中で再開の可能性を探っている状態です。医療職を教育するという使命と、実習先の利用者や学生を感染から守るという義務のジレンマを抱えて、我々は難しい判断を迫られており、今後我々が行う判断が正しいものであるかどうか確信が持てないのが現実です。多くの現場では業務を継続しながら自分と利用者の感染を防ぐことに尽力されていますが、できる限りの予防策を取っていても現実には感染を完全に防ぐことはできません。職務中のリハビリ職の感染も既に報告されています。そして、極めて残念なことです。医療従事者やその家族に対する差別が起こっていることも報道されている通りです。医療職には、こういった困難な状況においても、利用者と自分を守ることが要求されます。

卒業までの教育に患者や利用者への関与介入が必須である一方、そのことによって患者や利用者に不利益を与えてはならないという原則は、現在の新型コロナウイルス蔓延以前にも存在し、このことが我々の教育に他の多くの学部と異なる特性を与えています。今回の新型コロナウイルスで、このことがより明確化しているだけとも言えます。例えば、基本的な感染予防策も取れず、クラスターの原因になるような学生を実習に出すことが倫理的に問題であるということは、理解するに難しくはないでしょう。

このため、我々の教育は厳しいものとなっています。多くの学生さんにとって、一定以上の水準に達するため、入学から卒業までの4年間の殆どを学業に捧げることが必須となっています。今回の緊急事態を受けて皆さんの困難が増えていることは理解できますが、上述の様な理由から、そのハードルを下げることは出来ません。皆さんが、真摯に学業に打ち込まれることを要請する次第です。

また、医療職養成校の学生として、この新型コロナウイルスに際しては、皆さんには、一般国民に求められる以上の倫理が求められます。コンパを開いた医大卒業生が世間から非難を受けていましたが、皆さんもそれに準じた基準で評価されます。国の指針はどの程度までが許容されるのか明確ではなく、罰則があるわけではありませんが、大学が出している指針は遵守して下さい。現状では、自宅であっても学生が集まっての飲み会を行うことや、自粛要請が出

ているような業種でアルバイトを行うことは、医療職養成校の学生としては、倫理に反すると個人的には考えます。

皆さんが、十分に学習を行うことが出来るように、我々も出来るだけの事は行いたいと考えており、その一つの手段として、当学科では学年担任制を取っております。2年生以上の学生さんは、担任の先生を既によく知っておられると思います。電子メール等の方法で、遠慮なく相談して下さい。新入生の担任には中前先生と加藤先生が当たられます。近日中に連絡があると思うので、同様の方法で相談して下さい。皆さんの声には出来る限り対応したいと考えています。

最後に、5月にウェブ講義が開始され皆さんの顔を見ることが出来ること、そしてこの混乱が収束し、実際に皆さんにお会いできることを心待ちにして、この一文を締め括りたいと思います。

令和2年4月21日

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部
作業療法学科 学科長 阪井 一雄